

『トライ&チャレンジ』

Try & Challenge

No. **35** 号

今号は・・・

- ・臨時総会のご報告
- ・9月越谷市議会の中継を見て
- ・コロナ禍における市民活動
- ・越谷サンシティの再整備計画
- ・講座のお知らせ

臨時総会が行われました

新型コロナウィルス感染症の影響により今年度の活

動自体が滞っておりましたが、去る10月16日、書面による「臨時総会」が行われました。今総会の総会は「議案第1号 会長人事について」「議案第2号 令和2年度活動方針について」の二つの議題を上程し、すべての議案について、過半数の賛成をもって可決されました。

今回の臨時総会にて、長年にわたり会長としてチーム白川をお支えいただいた伊藤 幹夫会長が退任され、あらたに飯塚 利男氏の会長就任が承認されました。また、活動方針、活動計画においては白川議員の政治活動を支援しつつ「会員個人の自主的な活動」をさらに進めていくことを確認し、新しい体制でのスタートをきりました。コロナ禍であっても私たちの地域、社会は目まぐるしく変わっています。日ごろ感じる疑問や意見をそのままにしないでお互いに持ち寄り、皆で考えて行動していきましょう。

新型コロナウィルス感染症は、今まで当たり前のように過ごしていた毎日がどんなものであったか思い出せない程大きな影響を私たちに与えました。いまだに続く自粛生活の中で、リモートワークのような新しいスタイルの働き方も定着した一方、私たちの生活の根本を支えるエッセンシャルワーカーの人々の存在の重要性とその現状の課題が改めて浮き彫りになっています。私たちもWith コロナの時代をどう生きていくかについて、誰でもない、自分たち自身で考えていくことを突きつけられているのではないのでしょうか。



市民が参加するということ —9月越谷市議会の中継を見て—

少し前の話になりますが、令和2年越谷市議会9月定例会での白川議員の質問をインターネット中継で拝聴しました。内容は「GIGA スクール構想とタブレット購入」、「小中一貫教育の3学園の問題点」などについてでした。私はIT関連の仕事をしているので地域活動ではその知識を活かして小中学校の情報教育に関するボランティアをしています。白川議員が質問を準備される段階で、市の事業に対して日ごろ自分が考えている私の疑問や意見を伝え、調査をしてもらい・・・というやり取りを何度か行いました。その中で自分では気が付かなかった市の動きや考え方を知ることができたため、いつもよりもより興味をもって中継を見ることができました。質問に対する市側の答弁もしっかりと頭に入りましたし、そのことを踏まえて今後自分がどう活動していこうかと考えることができました。市が行っていることを「自分事」としてとらえることができ、自分が市政に参加していると実感できた貴重な体験だったと思います。これをもっと多くの人たちと行えれば良いし、それが市民参加、市民が主役のまちづくりにつながるのだと思いました。

コロナ禍におけるこども食堂の取り組み

感染状況の変化にあたり、逡巡しながらも、3月4月はこども食堂（白岡市内で実施しているこども食堂）をお休みとしました。そのあいだ、情報をさぐり、学び、5月からは「お弁当配布」の形を取って、こども食堂の営みを続けています。「孤立が深まる時期だからこそ活動したい」「感染が広まる場所にはいけない」との葛藤は続いています。漫然と「やっぴまおう」「閉じてまおう」とならないよう、考え続けているのです。

このような対応ができたのは、コロナ禍以前から、私たちが、常に「何が目的でこども食堂をするのか」を話あって来たからだからこそだと思っています。私たちのこども食堂に来るであろう、必要としているであろう、この地域のこどもたちに最善の食堂であるためには、なにが必要で、なには余計なことか。同時に、やっている私たち自身にも、なにができて、なにはできないのか。その両面を明確にしていこうと努力して来ました。その年月の中で、「その地域ごとに、やり方は違う。違うことが、その食堂の有意性なのだ」を実感できるようになりました。自分のものに出来つつある、と実感しています。

白岡在住 中野昌子

越谷サンシティ再整備計画 —「ヤバい」と思ったらチャンスです—

今、越谷サンシティの再整備計画に関わっていますが、当初聞こえてきた計画の主な理由が、築40年経過し施設が古くなったため利用者が減少、収益見込みのある施設に建替えるというお話。単純にどんな箱が必要かという計画からは、本質的な機能が見えてきません。人口減少、ポストコロナ、AI、情報社会、人と地球の共生、といった生活に新しい価値観を求められる時代に、今までと「同じ」考えではヤバい。私達の暮らしに何が必要なのか？を多様に想像するプロセスを経て未来のビジョンが創られ、あらゆる人が協力できることを模索し、未来に結果を得ようとすれば人は動く。「ヤバい」が新しい「しくみ」を創るチャンスです。

越谷在住 小菅祐加



埼玉政経セミナー 第3回特別講座

「私たちのまちはどうなっており、どうなっていくのか」 —市民が望む地域や社会を考える—（仮題）

白川議員が代表をつとめる、埼玉政経セミナーの第3回特別講座が来年3月に開催されます。テーマは「自分たちの住んでいるそれぞれの自治体の状況や課題」。会員がこの間取り組んできた研究発表会を開催いたします。

日時：3月14日（日） 14:00～

会場：春日部市民活動センター会議室（予定）